

Information

これから開催するイベント一覧です。

詳細やお申し込み方法は、
サポートオフィスHP内の「イベント」ページを
ご確認ください。



- 11/29(土)～12/7(日) 第19回町田市市民民協働フェスティバルまちカフェ!
- 12/11(木) まちカフェ!オープンデー
- 12/21(日) まちだ地域まるごとキャンパス最終報告会

Pickup Event

まちカフェ!

11/29(土) ● 場所 町田市庁舎3階 町田市議会本会議場

出張!いのちの授業～町田の助産師が中学生へ伝えているいのちの話～

～助産師が語る「いのちはなし」～町田市内の公立中学校有志の養護教諭と協働しながら、いのちの大切さを中学生につたえています。今回の講演では中学校で行っている「いのちの授業」助産師の出張版です。心音聴取、赤ちゃん抱っこ、妊婦体験などの体験も行います。

- 時間 10:15～11:30(開場10:00)
- 主催 いのちの授業研究会助産師サークル



町田でマンボ!ラテンビックバンドを体感しよう!

町田市在住、日本ラテンミュージック界重鎮 ベッカーホー正人氏プロデュース&出演の「マチーダ楽団」によるラテンビッグバンドのコンサートを開催いたします。2024年のまちカフェ!で議場を沸かせた「ベッカーホー with マチーダ楽団」が今年も議場に帰って来ます!

- 時間 12:45～13:45(開場12:30)
- 主催 マチーダ楽団



TOPICS 1

11/29(土)当日、
まちカフェ!のテーマカラー
“みどり色のアイテム”を
身に着けて来場すると
記念品をプレゼント!

※準備数に達し次第終了となります



TOPICS 2

まちカフェ!の公式Instagramで
カウントダウン投稿を実施中!
ぜひフォローしてください!

@machicafe_machida
#町田のまちカフェ



ぜひチェックして
当日ご来場ください



スタッフが日々の生活や仕事の中で見た、聞いた、感じたことを読者の皆さんにちょこっとシェアします。
過去のバックナンバーも右記のホームページからご覧いただけます。ぜひお楽しみください。

サポートオフィススタッフ Note No.6



中島さえ

秋と言えば食欲の秋!限定スイーツには目がありません

「『やってみたい』を応援したい!」

今年4月から、サポートオフィスのほかに都内の生涯学習センターで社会教育指導員として働いています。講座の企画や運営、地域で活動する人や団体との関わりが主な仕事です。生涯学習センターは地域の団体やサークルが定期的に部屋を借りるイメージだったのですが、講座だと意外と「初めて来ました!」という方と出会うことも多く、地域活動は未経験でも「何かやってみたい」と思っている方にたくさん出会えます。「まちカフェ!」も、そんな方々に出会える機会だと思っています。初日(11/29)は出展者も来場者も多く目の回るような1日ですが、「新しいつながりが生まれるかも」という出会いに今からわくわくしています。



町田市地域活動サポートオフィスでは、地域活動に関する悩みや相談を受け付けています。電話やメール、または直接来所して相談することができます。



MAIL info@machida-support.or.jp

TEL 042-785-4871

月～金 午前9時から午後6時 (毎月第三水曜日は午後5時まで)

〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目9-8 町田市民フォーラム4階

最新情報はホームページや各種SNSでも発信しております。



友だち登録募集中

<https://machida-support.or.jp>

まちだづくりのコミュニケーション誌 サポートオフィス通信

HA 一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス 発行

2025 NOV vol.63



▲参加者同士の自己紹介、講演の途中で、近くの席の方と意見交換する機会が多く、会場はとても賑わっていました。

Now | 開催報告 |

コーディネーター研究会 特別セミナー 「地域づくりニューリーダー論 ～だれもが地域づくりの仲間となるために」

10月5日(日)、町田市民ホール第1会議室にて「コーディネーター研究会 特別セミナー」を開催しました。講師に宇都宮大学 地域デザイン科学部の石井大一朗教授をお迎えし、「これからの地域づくりに求められる新しいリーダーのあり方」をテーマにご講演いただきました。

また、サポートオフィスからは、今年度より開始した「コーディネーター研究会」の中間報告として、実践者へのインタビューから見えてきたコーディネーターの成果や必要なスキルについて紹介しました。

当日は、市内外から37名の方々にご参加いただきました。参加者は、市内で活動するNPOや地域団体関係者、町内会・自治会役員、高齢者支援センター職員、大学院生など多岐にわたり、活発な意見交換が行われました。

特に、参加者同士で対話をを行うワークの時間では、各所で積極的な交流が生まれ、学びを深める有意義な時間となりました。

講演のポイント

石井教授の講演では、豊富な事例に基づき、新しい地域づくりに必要な視点や実践のポイントが分かりやすく解説されました。

- 地区や世代の枠を超えた取り組みの工夫
- 立場の異なる団体同士が想いを共有する際のヒント
- 参加者の関心を引きつける方法

どれも、明日からの活動にすぐ取り入れられる内容ばかりでした。

セミナーに参加した感想

- スモールスタート&クリックスタートの話しに勇気づけられました。まずはプロトタイプとなる一歩を踏み出してみようと思います。



- 全く未知の領域の話でしたが、大変刺激的でした。横のつながりを今後も作りたいと思いました。

- コーディネーターの研究が進み、職業的価値が高まるといいなと思います。各現場を支えるみなさんのことばひとつひとつがステキでした。

講演会の全体レポートはホームページからお読みいただけます!



\ 地域づくりニューリーダー論講演会から学ぶ! /

仲間を増やすコーディネーション3つのポイント

本特集では、石井教授のご講演内容を振り返り、皆様の活動に具体的に活かしていただけるポイントをサポートオフィスの視点からご紹介します。紙面には掲載しきれなかった講演会のより詳細な内容は、ホームページのレポートもあわせてご覧ください。



石井教授より

「関係性を固定化しないこと」は、新しい時代の地域づくりにおいて重要です。どんなにすばらしいリーダーであっても、ネットワークや知識はその人固有のもの。先を見据えれば、新しい人たちを交えて話し合いをしていくことが大切だと考えます。地域づくりのコーディネーションとして新しいつながりをつくるためには、1回であきらめないことが大切です。3回は声をかけてみる。“しつこさ”を大事に町田の地域づくりに取り組んでいっていただけたらと思います。



PROFILE

石井 大一朗 氏（宇都宮大学 地域デザイン科学部）

大学卒業後会社勤務を経て、建築まちづくり事務所を起業するとともに、大学院に入学。コミュニティ政策を学ぶ。その後、神奈川県を中心として、まちづくりを支える中間支援NPOの理事・事務局として15年ほど、NPOの支援やまちづくりのコーディネーターを担当。自治会・町内会や地域学校協働に関する研修の講師も多数務める。現在、法政大学と町田市の共同研究「地域コミュニティの未来に関する共同研究」にも参加。

地域コミュニティ
の未来に関する
共同研究



point

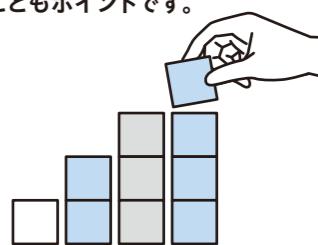
01

地区や世代の枠を超えた取り組みの工夫

Quick start&Small start

組織を超えて、素早く動く、小さく始める

新しい取り組みをはじめてみたいと思ったときにハードルとなるのが既存の組織の枠組みです。特に、大きな組織の合意形成は大変です。そこで効果的なのが「やってみたい人たちが集まり、とりあえずチームではじめてみて、徐々に既存の制度とすり合わせをしていく」という進め方。**小さくてもまずやったという実例をつくる(=プロトタイピングする)ことが大切です。**また、長く続けるために、本当に大事なことを絞り、企画にあれこれつめこまないこともポイントです。



\ サポートオフィスから /

サポートオフィスでは、個別相談や伴走支援を通じて、皆様の「やってみたい」という想いを形にするお手伝いをします。挑戦を資金面で支える「まちだづくり応援基金」や、実践の場となるイベント「まちカフェ!」への出展などもご活用ください。

point

02

立場の異なる団体同士が想いを共有する際のヒント

コミュニケーションを促すワークを上手に取り入れる

お互いの活動を聞き合い、フィードバックを通して「わかりあっていること／わかりあっていないこと」を認識することが大切です。「ズレ」に気づければ、第一歩を踏み出しています。講演で紹介された2つのコミュニケーションワークをぜひ取り入れてみてください。

1 ほめほめ＆ギフトワーク

異なる団体が集う場におすすめのワークです。活動を紹介し合い、「良い点」や「連携の可能性」を付箋で書いて贈り合います。言葉のギフトは活動を支える宝になります。



2 私の視点から、地域ミニ・プロジェクトを発想するワーク

自分と地域の関わりを見つめ、新しいプロジェクトを発想するワークです。「私自身」「地域」「関心事」を書き出し、3つの要素を繋ぎ合わせ、新しいプロジェクトを発想していきます。

\ サポートオフィスから /

サポートオフィスでも会議の進行の際には、様々なワークを取り入れています。会議の冒頭に「秋といえば」「好きなおやつは」といった誰もが話せるテーマで一言ずつ話すだけでも、発言しやすい雰囲気が生まれます。ぜひお試しください。

point

03

参加者の関心を引きつける方法

世代や個人ごとの参加動機を意識する

地域活動では「楽しく、ワクワクする場づくり」が重要です。ただ、その感じ方や参加の動機は人それぞれ。**世代や立場によって参加動機は異なることを意識しましょう。**若い世代は「自己成長と技術習得・発揮」や「レクレーション」を重視し、「友達が活動しているから」という動機も多く見られます。課題やテーマを示すだけでなく、**参加してほしい人が魅力を感じる点を意識して広報やプログラムを工夫することが重要です。**

\ サポートオフィスから /

サポートオフィスでは、特に若者が地域活動に関わるきっかけを提供するためのプログラムを複数実施しています。どのプログラムも、参加者の「成長」や「学び」に着目し、設計・運営しています。プログラムの立ち上げ方や運営のコツもお伝えしますので、お気軽にご相談ください。

若者
これまで
に実施
した
プログラム

まちだ地域まるごとキャンパス

高校生・大学生向けボランティア。1日もしくは3日間地域活動を体験するプログラム



若者と考えるプロジェクト

行政と連携し、選挙啓発や交通安全などで若者の視点を生かし、グッズやポスターを制作

\ サポートオフィス主催 / 「コーディネーター研究会」 中間報告

サポートオフィスでは今年度より、これからの地域づくりの担い手としての「コーディネーター」に着目し、コーディネーター研究会を開催しています。ここでは講演会で行った中間報告の一部をご紹介します。

趣旨

町田市内で活躍する「コーディネーター（専門職に限らず広くコーディネーター的人材）」をゲストにインタビューを行いながら、コーディネーターのスキルやあり方を「言語化」すること、参加者同士の交流と学びを深めることを目的としています。

実績

第0回～第3回、計4回開催し、ゲスト6名、参加者は累計48名でした。



インタビューからみえてきたこと

コーディネーターの成果

- 活動の場以外でも自発的な交流が生まれているとき
- 安心感が醸成され、主体性が育まれ関係性が広がっているとき



コーディネーターに必要なスキル

- 声にならない声への感受性
- 役割付与による主体性の促進
- 時期を待つ（寝かせる戦略）
- 一人で解決せず、周囲を巻き込む
- 参加の入口を増やす

※研究会では、すべてのゲストに同じ質問をすることでコーディネーターの個性やスキルを可視化しています。

例)・コーディネートスタイルについて、「理論派・経験派・感覚派」を割合で表す?・コーディネーターとして活動する中で、最も大切にしている価値観や判断軸とは?などの質問をしていました。



次回コーディネーター研究会は年明けを予定しています。
今後の活動をぜひ注目ください。

過去の開催レポートはすべてホームページからご覧いただけます

